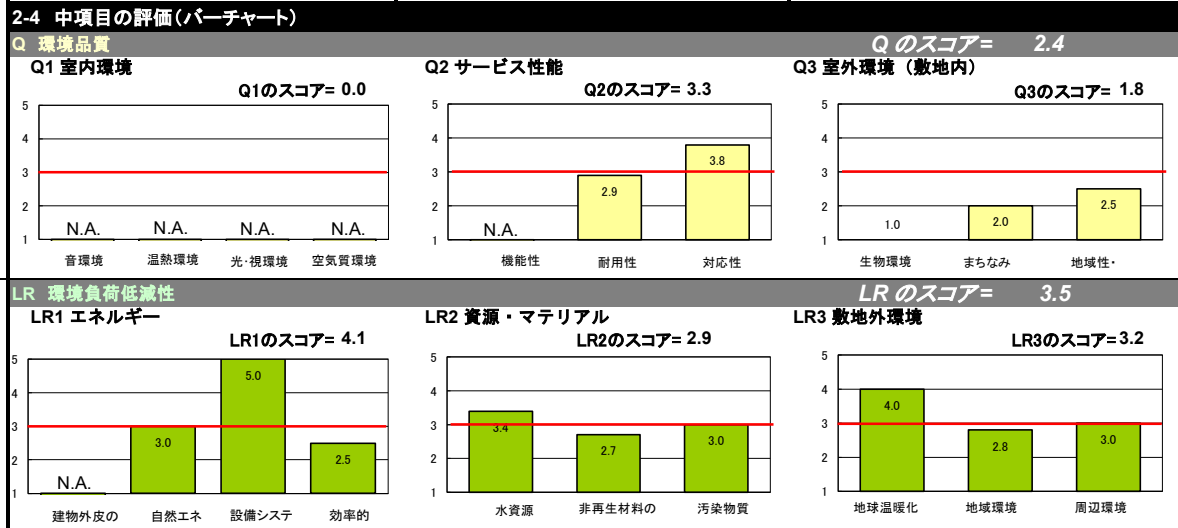
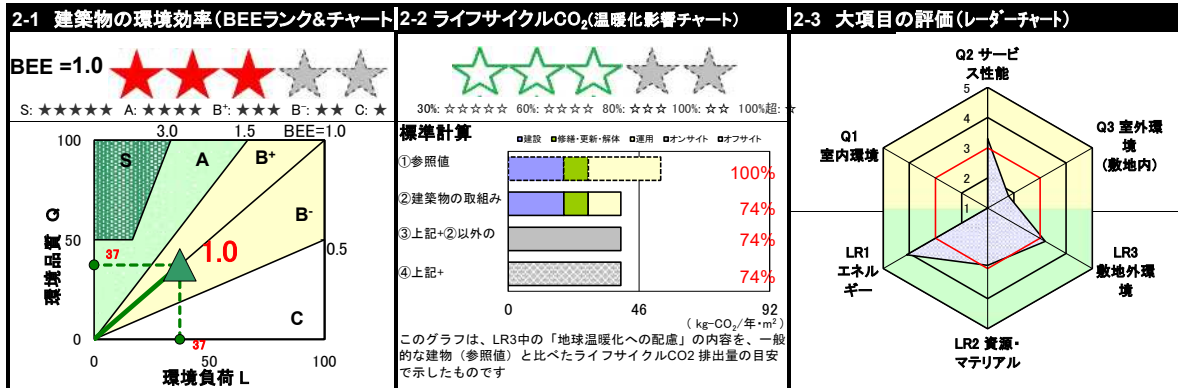


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	丸鳥鶏卵株式会社 牟呂工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県豊橋市牟呂町字西明治川東63番、64番1、64番2	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	45人
気候区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年4月23日
敷地面積	3,791 m ²	作成者	本間 茂樹
建築面積	2,026 m ²	確認日	2024年4月30日
延床面積	3,650 m ²	確認者	本間 茂樹



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr><td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td><td>0.0 %</td></tr> <tr><td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td><td>0.0 %</td></tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr><td><外装材に使用した地域性のある材料></td><td>なし</td></tr> <tr><td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td><td>なし</td></tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
丸鳥鶏卵株式会社 牟呂工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分			住居・宿泊部分			全体
配慮項目	重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質														2.4
Q1 室内環境														-
1 音環境														-
1.1 室内騒音レベル														3.0
1.2 遮音														-
1 開口部遮音性能														-
2 界壁遮音性能														-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-
1.3 吸音														-
2 温熱環境														-
2.1 室温制御														-
1 室温														3.0
2 外皮性能														3.0
3 ゾーン別制御性														3.0
2.2 湿度制御														3.0
2.3 空調方式														3.0
3 光・視環境														-
3.1 昼光利用														-
1 昼光率														3.0
2 方位別開口														3.0
3 昼光利用設備														3.0
3.2 グレア対策														-
1 昼光制御														5.0
3.3 照度														3.0
3.4 照明制御														3.0
4 空気質環境														-
4.1 発生源対策														-
1 化学汚染物質														3.0
4.2 換気														-
1 換気量														3.0
2 自然換気性能														3.0
3 取り入れ外気への配慮														3.0
4.3 運用管理														-
1 CO ₂ の監視														3.0
2 喫煙の制御														3.0
Q2 サービス性能														-
1 機能性														0.43
1.1 機能性・使いやすさ														-
1 広さ・収納性														3.0
2 高度情報通信設備対応														3.0
3 バリアフリー計画														3.0
1.2 心理性・快適性														-
1 広さ感・景観 (天井高)														3.0
2 リフレッシュスペース														3.0
3 内装計画														3.0
1.3 維持管理														-
1 維持管理に配慮した設計														3.0
2 維持管理用機能の確保														-
2 耐用性・信頼性														0.5
2.1 耐震・免震・制震・制振														2.9
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														0.4
2 免震・制震・制振性能														3.0
2.2 部品・部材の耐用年数														0.48
1 躯体材料の耐用年数														3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔														2.0
2.4 信頼性														0.1
1 空調・換気設備														3.0
2 給排水・衛生設備														3.0
3 電気設備														3.0
4 機械・配管支持方法														3.0
5 通信・情報設備														3.0

3 対応性・更新性			0.4	3.8	0.48	-	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	4.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			独自③	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.45	3.0	5.0	0.63	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	2.5	0.25	-	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			1.0	2.5	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	2.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.9
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	1.00	-	-	-	
3 冷媒			3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率74%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			0.3	2.8	0.33	-	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.5	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			独自	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			独自	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自	3.0	0.33	-	-	-	
2 振動			独自	3.0	0.33	-	-	-	
3 悪臭			独自	3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 丸鳥鶏卵株式会社 牟呂工場

計画上の配慮事項	
総合	景観との調和と使用設備に配慮している。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	階高を高くし、ゆとりのある空間を作っている。
Q3 室外環境(敷地内)	景観との調和に配慮している。
LR1 エネルギー	BEI=0.45である。
LR2 資源・マテリアル	LGS下地を使用している。
LR3 敷地外環境	広告物照明を使用していない。
その他	特になし。